

令和3年度認定

【計画名：長野県立美術館を中核とした文化観光拠点計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R3			R4			R5		R6		R7	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来館者数(国内)(万人)	60	78	130%	65	88	135%	65		71		77	
来館者数(国外)(人)	4,600	コロナ禍により未集計	—	6,900	コロナ禍により未集計	—	9,500		11,200		13,100	
来館者の満足度(国内)(%)	85	83	98%	88	90	102%	90		93		95	
来館者の満足度(海外)(%)	80	コロナ禍により未集計	—	82	コロナ禍により未集計	—	84		86		88	
善光寺参拝者の取込(万人)	6	28	467%	12	45	375%	12		18		24	
公共交通機関による来館者の割合(%)	—	—	—	10	45	450%	15		20		25	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総来館者数は、新生美術館の話題性や大型企画展の開催、さらに隣接する善光寺の御開帳等も重なったことから、目標を大幅に上回った。(目標に対して135%) 月別では、善光寺御開帳の参拝客が訪れた4月～6月においては堅調であり、大型企画展を開催した7月～10月においては前年度を大幅に上回った。一方で、冬季の来館者は前年度に及ばなかった。 国外からの来館者数については、新型コロナウイルス感染症の影響により年度前半はほぼ皆無であったため、調査ができていない。海外からの来館者の満足度についても、同様の理由により調査ができていない。 善光寺参拝者の取込人数は、来館者アンケート結果に基づく推計値である。 公共交通機関による来館者の割合は、5/1～17のGW、10/14～31の常設展のみの期間に、通常とは異なるアンケート内容を設定した際に集計した。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制限があったものの、夏季の大型企画展のヒット等により、総来館者数は新生美術館オープン時の前年度を上回り、美術館の認知向上につなげることができた。

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R3	R4	R5	R6	事業類型ごとの実績額
事業1-①	コレクションの磨き上げ	書1点の額装と絵画1点の低反射アクリル装着を実施。	信濃デッサン館コレクションの一部を低反射アクリルで額装し、鑑賞環境を改善。			0.3百万円
事業1-②	本館リニューアル完成記念イベント	5つの記念イベントを実施。(新型コロナウイルス感染症の影響により2事業は中止。)	—			
事業1-③	無料ゾーンのコンテンツの充実	無料の交流スペースで上映するオリジナル映像作品の委託制作に着手。	無料の交流スペースで上映する、委託制作によるオリジナル映像作品が完成。			
事業1-④	善光寺御開帳特別記念展及び関連イベントの開催	—	「善光寺御開帳記念 善光寺さんと高村光雲」展及び講演会など関連イベントを開催。			
事業2-①	展示の解説パネル等の多言語対応	収蔵作品情報の一部を英訳し、展示作品のキャプションに英語併記を実施。	収蔵作品の一部キャプションの英語併記を実施。			3.3百万円
事業2-②	インクルーシブ・プロジェクトの充実	視覚以外の感覚で鑑賞できるアートラボ、障がいのある方のための特別鑑賞日等を実施。	アートラボや特別鑑賞日等の実施に加え、R3に感染防止対策のため中止した、触れることを伴う事業等を実施。			
事業2-③	善光寺御開帳に関連した映像制作	—	善光寺の協力のもと御開帳に関連した映像を制作し、展示室内で上映。AR技術を用いた仏像の立体的な再現。			
事業3-①	シャトルバスの運行	未着手	未着手			—
事業3-②	長野県立美術館と連携した企画きつぷの販売	高速バスの利用促進に向けた実証実験として「お得にアートきつぷ」を販売。	未着手			
事業4-①	文化融合型のハイカジュアルなレストランとスタイリッシュなカフェの運営	レストランとカフェを運営。企画展と連動したメニューの提供。	各企画展ごとにスイーツメニューをレストランと開発、販売。			—
事業4-②	美術館オリジナルの商品開発	美術館オリジナルラベルの七味唐辛子缶やシールド等を製作。	収蔵品をモチーフとした各種グッズ、御朱印帳等を制作。			
事業5-①	長野県観光機構と連携したプロモーション	—	長野県観光機構と連携し来館者増の施策を計画中。			0.1百万円
事業5-②	観光・商工・交通事業者等との連携による観光誘客活動	広報媒体を活用した広報を実施。	ながの観光コンベンションビューローと連携し、美術展に合わせラッピングバスを運行、地域観光PRと連携した広報の実施。			
事業5-③	多言語による美術館の紹介(コンセプトブックの多言語化)	—	英語版コンセプトブックを制作後、関係各所に配布し配架を依頼。			
事業5-④	デジタルサイネージの設置	—	未着手			
事業6-①	デジタルサイネージの設置(再掲)	—	未着手			—
各年度ごとの実績額→		—	3.7百万円			3.7百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品を額装することによって、当該作品を安全且つ快適に鑑賞できる状態にし、展示の機会を設けることができた。 ・「善光寺御開帳記念 善光寺さんと高村光雲」展を開催し、隣接する善光寺と連携を図ることができた。 ・美術館コンセプトブック等の多言語化を進めることができた一方、解説パネル等の多言語化は一部にとどまっている。 ・インクルーシブ事業については、コロナ禍の影響により一部変更を余儀なくされたが、おおむね計画通りに実施できた。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・額装した収蔵作品の展示により、美術館のコレクションや作家に対する来館者の理解、関心が深まり、美術館の魅力向上を図ることができた。 ・インクルーシブ事業や無料ゾーンのコンテンツの充実、誰もが気軽にアートと出会う開かれた美術館としての環境整備につながり、来館者の満足度向上に寄与している。 ・周辺地域や事業者と連携した文化観光の推進については、これまで以上に周遊性や利便性を高める事業展開が期待される。 ・展示内容等の多言語対応については、コロナ禍後のインバウンド需要を見据えた事業展開が求められる。
--

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

要件	文化観光拠点施設名	長野県立美術館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		<ul style="list-style-type: none"> ○ 親しみやすい美術館になるための魅力的なコンテンツや企画展示などを強化している。 <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも楽しむことができる企画展の開催等 ・年数回の展示替えを行いながら様々なジャンルの収蔵品を紹介 ・本館リニューアル完成記念イベントの開催（新しく生まれ変わった美術館の魅力をまずは多くの人に知ってもらうための、美術に特段関心のない層をターゲットにしたイベント） ○ 美術の新しい楽しみ方を提案している－「インクルーシブ・プロジェクト」 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚だけでなく様々な感覚を通して美術に親しんでもらうための作品展示（触れる美術作品） ・こどもアートラボ、たてもものツアー、障がいのある方のための特別鑑賞会の開催等 ・事業を行う人材の育成（アート・コミュニケータの育成、館職員を対象にしたインクルーシブ研修会）
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		<ul style="list-style-type: none"> ○ スマートフォンやタブレット端末からQRコードを読み取ると、展示品の解説や作家に関する解説をテキストと音声で鑑賞者に提供する「作品解説システム」を運用している。（解説テキストは、日本語、英語、中国語（簡体字／繁体字）、韓国語の5言語及び視覚障がい者向け解説の6種） ○ 超高精細画像を高速表示し、タッチパネルで視点移動や拡大・縮小等の直感操作により、肉眼では見えない絵画の詳細が鑑賞できたり、見どころの解説が読める「コレクション紹介映像システム」を運用している。 <p>※ただし、令和3、4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、タッチパネルでの操作は不可とし、スライドショー機能による画像上映のみとなった。</p>
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		<ul style="list-style-type: none"> ○ 美術館パンフレットの多言語版（英語、中国（簡体字／繁体字）、韓国語）及びコンセプトブックの英語版を作成した。 ○ スマートフォンやタブレット端末からQRコードを読み取ると、展示品の解説や作家に関する解説をテキストと音声で鑑賞者に提供する「作品解説システム」を運用（解説テキストは、日本語、英語、中国語（簡体字／繁体字）、韓国語の5言語及び視覚障がい者向け解説の6種） <p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多言語対応の問い合わせ用ハローダイヤルを導入した。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化庁が実施したコーチング支援制度を活用する中で、県（文化政策課、観光誘客課）、指定管理者（県文化振興事業団）及び長野県観光機構による連携体制を構築した。 ○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面によるミーティングがしづらい状況ではあったが、本拠点計画の共同申請者との会合の場（対面でのプレストの機会）を持つこともできた。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		<ul style="list-style-type: none"> ○ 来館者へのアンケート調査により、来館者の満足度や属性等のデータを収集している。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立		<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3、4年度のコーチングを経て、「ランドスケープ・ミュージアム」という長野県立美術館のコンセプトを館内で整理、共有した。今後は、コンセプトを具体的な取組に落とし込み、実施結果を検証していく。

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
一般社団法人長野県観光機構	<p>令和4年度においても、コロナ禍が誘客に影響を及ぼす中ではあったが、長野県立美術館の来館者数が前年度（令和3年度）を上回る結果であったことを鑑みると、本計画実施による一定の効果はあったものと考えられる。また、令和4年度は隣接する善光寺の御開帳にあわせた記念展『善光寺さんと高村光雲』及び関連イベントの開催や、企画展にあわせたラッピングバスの運行など、地域や観光・交通事業者と連携した事業も行われ、長野駅―善光寺エリアの周遊性の向上を図る取組が進められた。</p> <p>今後もインバウンド及び国内の観光需要の本格回復に向け、長野市街地ひいては長野県観光の魅力向上に欠かせないパートナーとして、一層連携を深めていきたい。</p>

⑦今後の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド来場者を取り込むために海外に向けた発信力を高め、多言語化の取組を推進する。 ・長野県立美術館コンセプト「ランドスケープ・ミュージアム」に基づき、今年は館をスケープ（莖）として文化を発信していく。 ・移動の利便性の向上につながる事業については、共同申請者（主に交通事業者）が実施主体となる取組を強化していく。 ・令和5年度もコーチング支援制度を活用しながら、有識者からの助言等を踏まえて事業計画の実現を図る。 ・美術館満足度向上のため、来館者アンケート項目の内容見直しと回収率の向上を目指す。実施方法（現在はアンケート用紙のみ）も電子化など多様化を図る。 ・多様な事業者との連携を進めるために美術館内部組織の体制を強化する。 ・観光機関や事業者等と構築した協力体制で善光寺、美術館周辺に滞留してもらう計画を引き続き進める。 ・善光寺において、令和4年2月に文化庁から認定を受けた「善光寺保存活用計画」に基づき、県立美術館や観光事業者等と連携した善光寺の文化財の公開・活用が進むよう、今後、本計画への盛り込みを行っていく。
